

フランス語に「タタミゼ」という言葉がある。ご想像通り、日本語の「畳」を動詞にしたもので、その意味は日本にかぶれ、日本びいきになることを指すという▼例えば、万国博覧会で日本を気に入る情緒豊かな生活を楽しむ人、駐在から帰国して和風文化に傾倒する商社マンを「やつはタタミゼした」と冷やかすらしい▼日本文化に接したり日本語を使ったりする影響で、いつの間にか言動が和らいで協調性が高くなる現象を、言語学者の鈴木孝夫さんは「タタミゼ効果」と名付けた▼もっと具体的に言うと、日本語を話すうちに心まで日本化し闘争的・対立的な感覚が薄れ相手を気遣うようになる。相づちを打ちながら人の話を聞き、状況に応じて謝罪することもできるようになる▼鈴木さんはピートルズのジョン・レノンを実例に挙げている。攻撃的で荒々しい性格のジョンは、オノ・ヨーコと結婚して柔和になり平和や貧民救済の活動に邁進した」と▼その国の言葉や文化によって人の心は大きく左右される。スペイン語を話せば情熱的に、フランス語なら論理的に、英語だと前向き思考になるという▼では日本語で話したら…。世界はいま敵対心に満ち紛争やテロが絶えない。北朝鮮を巡る情勢は一触即発の状況だ。日本が融和を語りかけ敵対心を拭い去る役目を担う。日本語の「タタミゼ効果」を想像してみる。

### 越山若水

2017.8.19